

みどりの東北

発行日/平成22年 1月
発行/東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

迎春



大頭森山付近から朝日連峰を望む
(写真提供：朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター)

トピック

特集

「朝日庄内プロジェクト」改訂

指導普及課

美しい森林づくり

「森林ふれあい活動とボランティア団体の紹介」

山形森林管理署

我が署の隠れた名所

宮城北部森林管理署

「千年クロベ」



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「年頭所感」

東北森林管理局長 古久保 英嗣



新年おめでとうございます。
新しい年が皆様にとって素晴らしい年となることを心からお祈り申し上げます。

一昨年秋のリーマンショックや米国大統領選におけるオバマ勝利を受けて幕を開けた昨年は、政権交代とドラスティックな政策転換、デフレ化と引き続き雇用不安、また、地球温暖化防止のための国際論議の先送りと、激変のうちに過ぎ去りました。

多くの分野において、新たな展望が十分開かれるに至らなかったのは残念ですが、本年が、確かな方向性に基づく「トランジション（移行）」のスタートの年となることを祈りたいと思います。

私も東北森林管理局では、昨年来、①森林整備を通じた地球温暖化防止、②林業経営コストの低

減と地域材の安定供給、③森林の保護・保全、④国民協働や生物多様性確保など多様な価値の重視、といった重点課題を掲げて業務運営に取り組んでまいりました。

皆様の多大な御支援、御協力を得て、概ね堅実な成果を挙げさせていただけたものと感謝申し上げます。

新しい年におきましても、国民の期待にこたえる管理経営を図ってまいりたいと考えています。今年度のキーワードは昨年のニュースの中にもみられるように思います。

オバマ大統領が七十二兆円に及ぶ経済対策の中で掲げた「グリーン雇用戦略」は、我が国及び各国において環境分野での雇用創出施策が模索されるきっかけとなりました。

鳩山政権が掲げた「コンクリートから人へ」のスローガンは、長年進めてきた社会資本整備政策について、その使い道やこれを担う人材面に着目して施策を問い直していくことにつながります。

さらに、これらの流れを受けて、年末には「森林・林業再生プラン」が策定され、林業・木材産業を我が国の成長戦略の中に位置づけ、地域資源を生かす産業として再生を図っていくこととされていきます。国有林についても、従来から進めている公益重視の管理経営に加え、技術力を生かして民有林の指導やサポートを行うこととされました。

戦後、国土を守り将来のニーズにこたえるために多くの関係者の努力によって造成された人工林資源を、改めて循環的に利用していくことが政策課題としてクローズアップされています。

これまで手間ばかりかかるお荷物とも見られてきましたが、毎年、旺盛な成長を続ける中で、主要な木材輸出国が天然林利用型から育成林活用型に移行していますし、国内でもさまざまな施策コストの削減や安定供給体制の再構築の取

り組みが動き出しています。

このため、関係者が力を合わせて技術の向上やビジネスモデルの改革を進め、地球環境にやさしく地域の発展を担う重要な資源として活用することが求められているのです。

東北森林管理局としても、管内の国有林資源を生かしていくことのみならず、施策コストの削減や戦略的販売などに取り組んできた人的資源を生かして、地域の民有林資源の活用にも貢献してまいりたいと考えております。

加えて本年は、大幅に組み替えられた予算の執行や、国有林野事業特別会計の一般会計への移行が検討されることとなっており、これらに柔軟かつ的確に適応していくためにも、改めて、職員一同、強い使命感とチャレンジ精神をもって、全力で努力してまいりたいと考えております。

本年が、東北地方における森林・林業の再生に向けた着実な移行の年となるよう取り組んでまいりますので、皆様の心からの御理解と御協力をお願いしたいと思います。



「年頭に当たって」

青森事務所長 小林 忠秋

新年明けましておめでとうございます。皆様には素晴らしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年はサブプライム問題、続くリーマンショックから中々立ち直れず厳しい状況が続きました。中国の経済成長などの明るい面もありましたが、林業に関連の深い住宅着工は大幅に減少するなど需要面では盛り上がりがない年となりました。景気は循環するといふのがこれまでの歴史です。今年こそは上昇局面となるよう願うところですし、林業・林産業もいち早くその波に乗れるよう努力していくことが重要と思います。

一方、森林・林業を巡るファンダメンタルは大きく変化しており

ます。まず、人工林資源が充実してきたことが挙げられます。東北

五県の人工林面積は平成十九年三月末現在で約百五十七万ha、蓄積は三・八億m³弱、蓄積増加量は毎年一千万m³以上、ha当たりの蓄積は約二百四十m³となっております。これは間伐材の利用が可能です。人工林があちこちにあり、出番を待っているということですが、平成七年三月末の九州七県の人工林は面積は百五十二万ha、ha当たりの蓄積が二百二十三m³でした。東北の人工林もようやく利用段階に入った、機械化や施業の集約化ができる環境が整ったということが言えます。人工林資源のうち国有林の割合をみると、東北は三分の一、九州は五分の一となっており、東

北における国有林の役割は資源的にも高いということになります。

次に、世界的な資源争奪戦の幕が開いたということです。原油や金価格の高騰は言うに及ばず、あらゆる資源がその価値を上げている。木材も例外ではありません。かつて我が国が世界の木材相場をリードしていた時代がありました。今や中国の方の影響力が大きくなっております。また、森林は投資対象としても見られております。日本の木材需要が減ったからといってそれだけでは木材の国際価格は下がりません。

三つ目に地球温暖化対策の加速化です。間伐の推進に対して理解が深まっており、支援策も充実しております。低コスト間伐や間伐材の利用が緒にいたばかりではありませんが、成果を挙げている事例が出始めております。また、木材のエネルギー利用にも注目が集まっております。更に企業のCSR活動の対象としても森林に関心が高まっております。

このように環境は大きな変動の

中にありますが、そういった状況の中にこそチャンスがあると見られております。関係者が力を合わせて新しい姿を創っていくことが重要です。

こうした中、国有林の使命は公益的機能の維持増進、林産物の持続的かつ計画的な供給、地域における産業の振興にあります。この使命を十全に果たすため、現下の喫緊の課題である間伐を推進することが重要です。また、民有林と連携を深めつつ、地域の林業・林産業の復権、山村地域の活性化のため、この指とまれのこの指となつて、率先して各般の取組を進めて行くことも必要ではないかと思えます。地域の関係の皆様と一緒に林業・林産業を盛り上げていきたいと考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。皆様方のますますのご繁栄ご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶とします。

「朝日庄内プロジェクト」改訂

―地域と連携した森林の保全管理を推進―

指導普及課

東北森林管理局は、平成十六年四月に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを設置するとともに、同年「森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト」（朝日庄内プロジェクト）（以下「本プロジェクト」という。）を策定し、朝日山地森林生態系保護地域とその周辺（烏海朝日・飯豊吾妻緑の回廊、庄内海岸林、高館山自然休養林）において、保護と利用の調整を図るため、常設の朝日山地森林生態系保護地域管理委員会をはじめ、地方自治体や地域住民、自然保護団体等と協働して、地域住民参加型の森林生態系の保全及び再生に取り組んできました。



プロジェクトの主要フィールド 朝日連峰

域の自然保護団体等から構成される「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会（座長・小野寺弘道山形大学農学部教授）を開

催し、九月以降三回にわたって今後の活動の指針となる「新プロジェクト」について検討を行いました。



第二回検討委員会

第一回委員会では、これまでの活動を総括した上で、新たな活動方針の策定に向けて議論し、委員から「地域住民に積極的に協力を求めていくべき」「自然災害に対する森林の現状認識が大切」などのご指摘をいただきました。

第二回委員会では、前回の意見を踏まえ、メールマガジン等によ

る積極的な情報発信や、関係機関と連携した森林環境教育の実践などを新たに盛り込んだ新プロジェクトの素案を事務局が示し、これに対し、委員からは「啓発活動は重要」「内陸地域の小学生を対象にした森林環境教育も大切では」などのご意見をいただきました。

第三回委員会では、第二回委員会後に実施したパブリックコメントについて論議した上で、今後の新たな指針となるプロジェクト改訂案が了承されました。

新プロジェクトでは、これまで進めてきた朝日山地森林生態系保護地域の保全や烏海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備、庄内海岸林や高館山の保全活動、朝日自然塾の更なる充実に向け、新たなネットワークを構築することとし、関係地域の生物調査に取り組む団体などの参画を要請するとともにサポーターの募集なども行い、来秋を目処に設立を目指すこととしています。同時に地方自治体等の関係機関などとの情報の共有、ネットワークの強化を図っていくこととしています。なお、「朝日庄内プロジェクト」の改訂版は、東北森林管理局及び朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターのホームページに掲載されています。

【森のお話】
…コラム…

「ヒバの樹下植栽共同試験」

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

星

比呂志

ヒバ（ヒノキアスナロ）は、北海道南部から日光まで分布しており、中でも青森ヒバは、日本の三大美林の一つとして有名です。青森県内には全国のヒバの八割以上の蓄積があると言われていますが、北海道の渡島半島、岩手県の早池峰山や新潟の佐渡島などにも群生地があります。早池峰山のヒバは、「早池峰ヒバ」とも呼ばれ、高い評価を得ています。

ヒバは用材生産用樹種の中では耐陰性が高いため、複層林施業等への活用が期待されています。従来から岩手県内には、複層林仕立ての造林地や成長量試験地等がありますが、苗木の産地・系統が明らかで、施業の効果を系統ごとに評価出来る設計の試験地がなかったことから、岩手大学、小岩井農牧株式会社と東北育種場の三者が共同で、ヒバの樹下植栽試験地を造ることになりました。

試験地は小岩井農牧社有林内に設定し、各機関がそれぞれの役割を分担しながら、成長量調査を三者が共同で行うことになりました。研究期間は平成十七年度～二十二年度です。

平成十八年四月に試験地の造成と苗木の植栽を行いました。アカマツと広葉樹の混交林の択伐箇所の樹下にヒバのさし木苗木を植栽しました。植栽した苗木は、東北育種場が保有する遺伝資源（ジーンバンク）から養成した三十二クローン二百本です。平成十八年四月の植栽時、平成二十年八月と平成二十一年九月に試験地の成長調査を行いました。

調査の結果（図-1）、これまでのところ、樹高・根元径とも、植栽した系統によって大きな差があることが分かりました。また、植栽当初の樹高・根元径とも大きいクローンは、林下（夏期の相対照度四十～六十%）

に植栽した場合でもその後の成長がよい傾向がありました。特に樹高においては、成長がよいクローンとそうでないものとの差が年ごとにどんどん開く傾向がありました。このようなことから、現時点では、苗畑段階で成長が良い系統を林地に植栽することが重要との考えに至っていません。

また、上木のアカマツや広葉樹の成長に伴い、林下の相対照度が年ごとに下がってきており、その影響で、平成二十年八月調査時には必要だった下刈が、二十一年九月には不要となっていました（図-2）。下刈が省略できるのはコスト削減の観点から望ましいことですが、一方、このまま上木の状態を放置すればいずれはヒバの成長が鈍化すると考えられます。

平成二十一年九月の調査の際には、今後の施業方針についても議論を行いました。その結果、育林コスト抑制の意味からも今後の刈り払いには不要。ヒバの成長を促すには上木の伐採が必要である一方、林床光強度低下にともなうヒバの成長量低下のデータ収集も重要であることから、平成二十二年程度までは成長量調査を実施し、上木の伐採はそれ以降とする

こと等を議論し、これらの課題については、来年度、さらに継続して検討することになりました。この試験地は、面積約〇・〇六haの小規模のものですが、関係機関の協力によって充実した結果が得られているものと思います。今後も良い成果が得られることを期待してまいります。

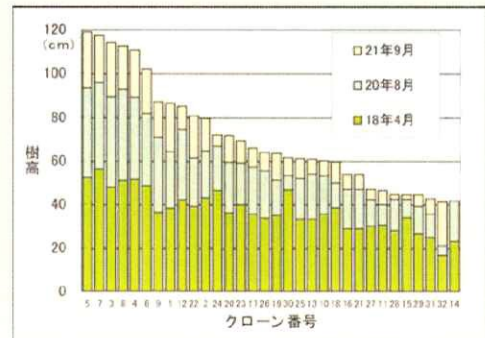


図-1 ヒバ植栽木の樹高

クローン間に大きな差がある。また、植栽時（平成18年4月）に樹高が大きいものはその後の成長も良い傾向がある。



図-2 ヒバ樹下植栽試験地

ピンクテープを付けたものが植栽木（平成21年9月15日）。



森林ふれあい活動とボランティア団体の紹介

山形森林管理署

山形県の最上川中流域に位置する山形市外十一市町における約七万七千haを管轄している当署管内の国有林には、磐梯朝日国立公園、蔵王国定公園、千歳・経塚自然休養林等があり、レクリエーションや森林とのふれあいの場にご利用されています。当署における主な活動をご紹介します。

森林生態系再生の植樹祭
市民の憩いの場となっている山

形市千歳山では昭和五十七年以降松くい虫被害が発生しています。このため、平成十九年度より「千歳山松林再生プロジェクト」としてマツを植栽しており、平成二十一年度は宅建協会、山形市立滝山小学校が抵抗性マツを使い植樹祭を行いました。



滝山小学校4年生150人による植樹



森林教室

蔵王坊平野外スポーツ地域は、入込者が多く学生等の強化合宿地としても利用され、周辺を含め樹

齢八十年以上のナラ林が多い地域ですが、平成二十年にナラ枯れが発生したため五十一本を伐倒駆除し、その跡地に上山市立中川小学校六年生、上山市長外六十五名によりブナ等の植栽を行いました。



ナラ枯れ木の伐倒処理



ブナ等を斜め植栽し雪害対策

二 森林浴ツアーの開催

「白壁洋子さんと歩く経塚山自然休養林」、「蔵王龍山の植物観察と春の森林浴」、「錦秋の蔵王中央高原散策と秋の森林浴」、「紅葉川の森林浴」のツアーを開催し、景勝地の散策とあわせて行う植物の観察が好評です。



白壁洋子さんによる植物の説明

三 遊々の森等での森林環境教育
・蔵王緑の騎士団は、平成十七年五月に結成され、平成十八年度に「蔵王緑の騎士団の森」を設定し、子どもへの森林環境教育等を行っています。



新規団員11名の任命式

・成沢グリーンファイルド協力は、平成十八年に二ツ沼湖畔の森を設定し山形市蔵王成沢地区の森林環境教育等を行っています。



きのこの駒打ち体験

・山形グリーンライフ女性の会は、平成五年九月に発足され、植栽・森林整備を行っており、平成十五年に国有林で十周年記念植樹を実行し下刈を行っています。



下刈作業



岩手南部森林管理署遠野支署

「民話のふるさと遠野」に
「ゴミは似合わない！」

(森林ボランティアによる
「ゴミの不法投棄調査」)

十二月十日(木)当支署管内の森林ボランティアと当支署職員で管内のゴミの不法投棄の状況を調査しました。

当支署管内で森林ボランティアとして登録している十四名のうちの八名と支署職員六名が五班に分かれ、木の葉が落ちてゴミ等が見えやすいこの時期を選んで、管内の国道等周辺及び林道周辺の不法投棄の調査を行いました。

調査の結果、林道周辺にはゴミは少なく、山菜・キノコ採りのマ

ナーは良かったものの、国道・県道周辺には、タイヤ、テレビ、空き缶等のゴミが目立ちました。調査終了後の支署会議室での意見交換の中では、「不法投棄防止の看板の周辺はゴミが少なかったので看板を設置したらどうか」、「タイヤをボイラーの燃料として活用したらどうか」、「缶ジュースを販売する際に十円加算し、返却の際に買い取る案を遠野から発信したらどうか。」などの奇抜な提案もされました。

遠野市は、「民話のふるさと遠野」として全国に知られており、また、来年、柳田國男の「遠野物語」発刊百周年を迎えることから、遠野からゴミを一掃するため、今回調査した結果を基に、来年春に撤去する方向で関係機関と協議することとし、調査を終了しました。



奇抜な提案もされた意見交換会

仙台森林管理署

地元の小学生を対象に
森林教室を実施

地元仙台市立北六番丁小学校より、総合的な学習の時間の校外学習において「地球温暖化とわたしたちのくらし」というテーマで講師の依頼があり、十一月十九日(木)、当署管内の台原森林公園において五年生四十二名を対象に森林教室を実施いたしました。

同公園は住宅が密集する市街地内にあり、その大半を国有林が占める都市の中の森林です。地下鉄の駅も公園内にあることからアクセスもよく、仙台自然休養林にも指定されています。公園内にはスギやヒノキ・アカマツ等の針葉樹から、イロハカエデ・ウワミズザクラ等の広葉樹まで数多くの樹種



熱心に説明を聞く生徒達



公園内を散策しながらの森林教室

が生育しており、散策路も整備されていることから多くの仙台市民の憩いの場となっています。当日は、秋も深まり寒さも増してきた時期でしたが、生徒達は、流域管理調整官の挨拶のあと、三つの班に分かれて元気に出発しました。

各班に分かれ公園内を散策しながら、署の職員が樹木や森林の多面的機能について説明すると、熱心にメモをとっていました。また松食い虫被害の処理木や薬剤注入木、また境界見出標に興味を示す生徒もいて、国有林野事業のPRにもつながりました。今後とも地元からの要望に積極的に応えて国有林野事業のPR、将来の山づくりを担う子供たちの育成に繋がるような活動を継続していきたいと考えています。

国有林野事業業務研究発表会において最優秀賞受賞

平成21年度国有林野事業業務研究発表会が12月10日(木)、林野庁において開催され、当局から発表した5課題のうち次の2課題が受賞しました。

《森林技術部門》



○ 林野庁長官賞 (最優秀賞)

「100年先を見通した森林づくり」を目指して
～造林地内に生育しているヒバの利用方法の検討について～

由利署 (元 金木支署) 高橋 友和

三陸中部署 (元 森林技術センター) 尾上 好男



○ 林業・木材製造業労働災害防止協会会長賞

「股バンド」の着用による刈払機作業の安全性向上について

金木支署 (元 下北署) 岸田 周

(株)JPハイテック送電補償事業本部 村松 貞雄

平成22年度国有林モニターを募集しています

東北森林管理局では、国有林の役割や現状をご理解していただき、国有林の管理・経営に国民の皆様の声を役立てていくため、毎年度東北森林管理局の管轄地域である青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県に在住する方から、「国有林モニター」を募集しています。

- 募集人員：48名
- 募集期間：1月4日から1月31日まで
- 募集資格、応募方法など詳しくは電話にてお問い合わせいただくかホームページをご覧ください
電話/018-836-2276
ホームページ/http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

～森の仲間の裏話 10～

へえーそうなんだ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 青山 一郎

飛翔



オオワシ



ノスリ

鳥の飛翔には、翼を羽搏いて飛ぶ搏翔(ばくしょう)と、羽ばたかずに飛ぶ滑空(かっくう)や帆翔(はんしょう)などがあります。ワシタカ類が上昇気流を利用して帆翔する姿は、ゆったりとして威厳のある様「鷹揚」の原義で、省エネ生活のルーツでもあります。

滑空などには、翼が細長い方が有利とされ、実際、海洋性のアホウドリなどはグライダー同様細長い翼です。ワシタカ類は指のように見える初列風切を広げて上手く気流を捕え補っていますが、翼の形は種によって若干異なり、それに応じて得意分野も違います。

彼らにあやかり、風をとらえて上昇する年にしたいですね。



ノスリ



ハイタカ



“クマよりこわいもの”

米代東部森林管理署 上小阿仁支署

平田森林事務所 佐藤 満

私の勤務する米代東部森林管理署上小阿仁支署平田森林事務所は秋田県北秋田市の南部に位置する旧森吉町阿仁前田地区にあり、同地区周辺を管轄する前田森林事務所との合同森林事務所となっています。当事務所管轄面積は約6,260ha、現況はブナ・ナラ等を主とする天然林及びスギ人工林です。



小又峡

当事務所部内の一部は森吉山県立自然公園内で太平湖という観光地を抱えており、新緑や紅葉の時期になると平日でも山奥の駐車場が観光客の車で満車になります。



太平湖

平成21年8月に当森林事務所に着任し、初めての森林官業務ということで慣れないことやわからないことも多々ありますが、合同森林事務所内のベテランの首席森林官や現場職員の助けをいただきながら、つかえつつかえではありますが業務を遂行している状況です。主な業務としては林野巡視や造林請負

事業の監督などの管理業務が主体で収穫調査等の直営事業は少なくなっています。着任当初から日々閉口しているのは事務所から管轄部内までの距離が遠いことです。車で片道50分の曲がりくねった道を現場に行く度に往復するのは忍耐力と運転技術の鍛錬にはなりますが、景色に見とれたりして一瞬でも集中力を切らすと大変なことになってしまうので、意外にスリリングな日々を過ごしています。

スリリングと言えば、支署管内では熊が頻繁に出没する（私も運転中に県道を横断する熊を目撃しました）ので、首席森林官から林野巡視等に行こうとすると「熊に食べられちゃうよ」と冗談めいた忠告を受けるのですが、よく「なんだかお前熊に似てるな」と言われる私としては、熊に食べられることよりもそ



熊より怖い「マタギ」さん

の熊の狩猟を生業とする「マタギ」の皆さんに間違っって撃たれないよう注意をしています。

このような職場環境ですので、現場までの運転や現場において作業をする際には安全の確保に十分留意し、森林官としての務めを全うできるよう業務に邁進して参りたいと思います。

我が署の 隠れた名所

宮城北部森林管理署

「千年クロベ」

(見所の概要)

栗原市花山温泉から約14kmの国有林内に天然クロベ(別名ネズコ)が群生しており、そのなかに「千年クロベ」と呼ばれている巨木があります。

この巨木は樹高21.5m、幹周り10m、推定樹齢千年(全国巨樹・巨木の会調べ)、落雷によるひび割れや焦げ付いた跡があるなど名前の由来どおり千年の風雪に耐えているだけでなく、昨年の岩手・宮城内陸地震の被害も受けずにどっしりと立っています。

現地までは、先の地震の被害により山腹や道路などが大きな被害を受け通行できず、徒歩で数時間ほどかかることから、文字どおり「隠れた名所」となりました。それでも、クロベにとっては、周囲が踏み荒らされることもなく、花山の奥深くに「千年経っている巨木がある」と知ってもらうだけで満足し、私たちを見守ってくれるでしょう。



交通アクセス

東北自動車道築館ICから国道4号線を経て国道398号線を湯沢方面に向かい花山温泉まで車で約50分。その先は復旧工事のため一般車両は通行できませんので、通行できるまでの間しばらくお待ちください。



お問い合わせ先

〒989-6166 宮城県大崎市古川東町5-32
電話番号：0229-22-2074 FAX：0229-23-8624